

令和5年度 年間指導計画・評価計画 社会科 2年

豊島区立明豊中学校

月	年間指導計画（学習内容） 単元名 単元の目標	評価の観点	具体的な評価規準	評価方法
4	展開する天皇と貴族の政治 ・摂関政治を基に平安京における貴族の政治の特色を捉えさせる。 ・東方の変化によって、政治と文化において動きが見られるようになったことに気付かせる。	知識・技能	・律令国家の確立に至るまでの過程を基に、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ・平安時代は、摂関政治が展開され、政治の実権が天皇から貴族に移行していったことを理解しているとともに、平安時代の文化の特色を諸資料から適切に読み取りまとめることができる。 ・鎌倉幕府の成立により、主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広がったことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。	定期 考 査
5	政治と文化において動きが見られるようになったことに気付かせる。 ・日本独自のかな文字が発明され、それを使った文学作品が書かれたことなどに気付かせ、文化の国風化が進んだことを理解させる。	思考・判断・表現	・東アジアとの接触や交流に伴う日本の政治や文化の変化に着目して、政治や文化に与えた影響を考察し、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・平安京への遷都や密教の興隆、国風文化の形成に着目して、政治や文化への影響を考察し、社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・武士の政治への進出と政治の展開、貴族の政治との違いに着目して、武家政権の特徴を考察し、事象を関連付けるなどして、古代から中世の社会の変化を多面的・多角的に考察し、表現している。	レポ ー ト 定期 考 査
	武士の世の始まり ・武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が広まったことを理解させる。 ・武家政治の特徴という観点から、古代から中世への転換の様子に気付かせる。	主体的に学習に取り組む態度	・律令国家の形成について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ・平安時代は、藤原氏の皇室との姻戚関係や広大な荘園の所有を背景に摂関政治が展開され、政治の実権が天皇から貴族に移行していったことを理解しているとともに、平安時代の文化の特色を、諸資料から適切に読み取りまとめることができる。	レポ ー ト 単元 テ ス ト
6	武家政権の内と外 ・ユーラシア大陸からの影響によって、日本にどのような変化が起こったのか考える。	知識・技能	・蒙古襲来が国内に及ぼした影響、南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などの知識を基に、武家政治が東アジア世界と密接な関わりを持ちながら展開していったことを理解し、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ・農業など諸産業の発達、都市や農村における自治的なしくみの成立、多様な文化の形成、応仁の乱後の社会の変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べまとめている。	定期 考 査
7	人々の結びつきが強まる社会 ・武士や民衆はどのような結び付きの社会をつくっていったのか考える。	思考・判断・表現	・蒙古襲来をモンゴル帝国の拡大の一環としてとらえるとともに、政治や社会に与えた影響を考察し、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・室町時代に農業や商工業が発達した理由や、民衆の成長が社会に与えた影響を、生産力の高まりと交通の発達に着目して考察し、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	レポ ー ト 定期 考 査
		主体的に学習に取り組む態度	・武家政治の展開と東アジアの動きについて、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ・民衆の成長と新たな文化の形成について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	レポ ー ト 単元 テ ス ト
9	日本の地域的特色 ・日本の自然環境や人口、産業には、どのような特色があるのか考える。	知識・技能	・地図や景観写真、統計資料などを的確に読み取る技能や、地域調査を行う際の視点、方法を理解している。 ・日本の地域的特色を、自然環境や人口、資源・エネルギー、産業、交通・通信の視点から、写真、図版、地図、雨温図など、さまざまな資料を適切に選択して読み取り、理解している。 ・九州地方の地形や気候などの自然環境に関する特色を理解し、産業や、防災の取り組みについて、情報を調べ、まとめている。	定期 考 査
10	九州地方 ・九州地方の自然環境は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのか考える。 中国・四国地方 ・中国・四国地方における交通網や通信網の整		・地図や資料から、中国・四国地方の交通・通信網による結び付きの変化と、それに関連する産業や生活の変化について理解している。 ・地図や資料を活用し、近畿地方の自然環境や歴史的景観の保全および、関連するほかの事象を読み取る技能を身に付け、地域的特色を理解している。 ・さまざまな資料を活用し、三つの地域の産業の特色と変化を読み取るとともに、自然環境の特色から異なる産業が発達したことを理解している。 ・自然環境や産業の特色を、人口の集中との関わりに着目し、地図や統計、分布図などから読み取るとともに、課題を理解している。	

	備は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのか考える。 近畿地方 ・近畿地方における自然環境や歴史的景観の保全は、人口の増加や産業の発展のなかで、どのように組み込まれてきたのか考える。 中部地方 ・中部地方における産業の発展に、自然環境や交通網の整備はどのような影響を与えているのか考える。 関東地方 ・関東地方における人口の集中は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。 東北地方 ・東北地方における人々の生活や文化に、自然環境や交通網の整備はどのような影響を与えているのか考える。 北海道地方 ・北海道地方の自然環境は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。	思考・判断・表現	・地図や写真などから、東北地方の自然環境や文化などの特色、産業の変化を読み取り、地域的特色や課題について理解している。 ・北海道地方の冷涼な気候の特色を理解し、厳しい自然環境のなかで暮らす人々の生活の工夫や、発展させてきた産業の特色を理解している。	レポート 定期 考 査
	・対象地域の地域的特色や課題をとらえるために適切な地理的事象を取り上げ、それらを多面的・多角的に調査、考察している。 ・日本の地域的特色を、自然環境や人口、資源・エネルギー、産業、交通・通信などの地域的特色が、どのように変化し、どのような課題を抱えているのか、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・九州地方において、特色ある人々の生活や産業が成立する背景を、自然環境や、大陸・国内との結び付き、地域の課題などと有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。 ・結び付きの変化や産業の変容について、人や物の移動の量や方向、人々の工夫などと有機的に関連付けて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自然環境や歴史的景観の保全に関わる取り組みを、人口の分布や住民の生活および産業の変化などと関連付けながら、原因と対策、効果の面から多面的・多角的に考察し、表現している。 ・中部地方の三つの地域において、それぞれ異なる産業が発達・変化した背景について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・人口が集中する理由を、第3次産業の発達のほか、他地域や海外との結び付き、自然環境の特色などに着目し、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・東北地方の人々の生活や文化、産業の発達と、自然環境や交通網の広がりはどうに関わっているのか、多面的・多角的に考察している。 ・冷涼な自然環境の影響を受ける人々の生活や産業の特色を、他地域との結び付きや厳しい自然環境を克服するための工夫などと関連付けて多面的・多角的に考察している。	主体的に学習に取り組む態度	・対象地域の地域的特色や課題を主体的に追究している。 ・自然災害への対応や人口減少に伴う少子高齢化など、身近な地域や生活との関わりに着目して、日本の地域的な課題について、主体的に追究しようとしている。 ・九州地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境と生活、産業との関わりについての課題を主体的に追究しようとしている。 ・中国・四国地方について、よりよい社会の実現を視野に、交通・通信網の整備に伴う産業の発展や地域の活性化に向けた努力などについて、主体的に追究しようとしている。 ・近畿地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境や歴史的景観の保全の視点からみた人々の生活や産業の特色を、主体的に追究しようとしている。 ・産業の視点からみた中部地方の特色について、自然環境の課題の克服に関する人々の工夫・努力に関心をもちながら、主体的に追究しようとしている。 ・関東地方について、よりよい社会の実現を視野に、人口の集中の視点からみた人々の生活や産業などの地域的特色を主体的に追究している。 ・東北地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境や交通網の整備の視点から地域的特色を主体的に追究している。 ・北海道地方について、よりよい社会の実現を視野に、冷涼な自然環境を生かした人々の生活や産業の特色や工夫に関心もち、主体的に追究しようとしている。	レポート 単元 テ ス ト
11	大航海によって結びつく世界・ヨーロッパの国々は、なぜ世界に進出したのか考える。戦乱から全国統一へ・全国統一が進むなかで社会はどのように変化したのか考える。武士による全国支配の完成・江戸幕府はどのようにして全国を支配したのか考える。天下泰平の世の中・江戸時代の社会は、どのような社会だったのか考える。社会の変化と幕府の対策・な	知識・技能	・十字軍の遠征を通じたイスラム勢力との交流や、それに伴うローマ教皇の権威の衰えが近代ヨーロッパ世界の形成を促したこと、新航路の開拓とヨーロッパの人々の進出により世界の一体化が始まったことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ・信長・秀吉による統一事業とその当時の対外関係、戦国大名や豪商などの生活・文化の特色などの知識を基に、中世社会の荘園制の崩壊と仏教勢力の衰退により、近世社会の基礎がつけられたことを理解し、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ・江戸幕府の成立や、大名の配置と武家諸法度の制定、参勤交代などによる大名の統制を基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ・兵農分離がさらに進み身分制が確立するなか、産業や交通が発達し、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。	定期 考 査
12		思考・判断・表現	・植民地化や貿易の活発化、先住民の酷使やアフリカからの奴隷の連行に着目して、ヨーロッパの人々の進出が、アフリカやアメリカ、アジアに与えた影響を考察し、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・統一政権の諸政策が中世社会から近世社会への変化を導き、日本の政治や文化に与えた影響を考察するとともに、海外貿易の許容とキリスト教の禁止という相反する政策に気付かせ、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・江戸幕府が貿易の統制を強化した理由を、キリスト教の禁止と貿易の独占という視点から考察し、事象を相互に関連付	レポート 定期 考 査

	ぜ幕府は改革が必要だったか考える。		けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・諸産業が発達した理由や、上方の町人を中心に元禄文化が広がった理由を、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	
		主体的に学習に取り組む態度	・鉄砲を複製し大量生産した日本の技術や、キリスト教伝来の際の人々の姿勢や考えについて、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ・安土桃山時代に育まれた歌舞伎や茶の湯などの日本の伝統文化が、現代社会に受け継がれてきたことの意義について、主体的に追究しようとしている。 ・独自の文化や交易の特色を持つ琉球王国とアイヌの人々の社会が、江戸時代にどのように変化したかに着目し、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ・江戸時代の交通・金融・小売業などの発達や、この時代に定着した行事や生活習慣が現代社会とつながっていることについて、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	レポート 単元テスト
1	欧米諸国における「近代化」 ・「近代化」の進展で、欧米諸国の政治や社会はどのように変化したのか考える。 開国と幕府の終わり ・欧米諸国が来航するなかで、人々はどうのような対応をしていたのか考える。 明治政府による「近代化」の始まり ・明治政府はどのような国づくりを行ったのか考える。 近代国家への歩み ・日本の「近代国家」の建設は、どのようになされたのか考える。 帝国主義と日本 ・「近代国家」日本は、世界でどのような動きをしていたのか考える。 アジアの強国の光と影 ・「近代化」によって、日本の産業や社会はどのように変化したのか考える。	知識・技能	・市民革命と産業革命を経た欧米諸国の世界進出、社会主義の登場の背景や植民地への影響を理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ・欧米諸国のアジア進出に対する清の動きと、日本の開国と貿易の拡大による政治的・経済的・社会的な影響を理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ・富国強兵や殖産興業の政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられ、人々の生活が大きく変化したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ・新政府が岩倉使節団の派遣や国境の画定などの新たな外交を進め、やがて自由民権運動の広がりを背景に憲法が制定されたことへの理解とともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ・日清・日露戦争での勝利や不平等条約の改正などを基に、日本の国際的な地位が向上したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ・日本の産業革命と国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、日本で近代産業が発達し、近代文化が形成されたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。	定期考 査
2		思考・判断・表現	・工業化の進展とそれに伴う政治や社会の変化に着目して、近代化により欧米諸国の政治や社会がどのように変化したか考察し、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・工業化の進展とそれに伴う政治や社会の変化に着目して、欧米諸国の東アジアへの進出が日本の政治や社会に与えた影響を考察し、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・明治政府の諸改革の目的に着目して、諸改革が社会や人々の生活に与えた影響について、また近世の政治や社会との違いに着目して、近世から近代への転換の様子について考察し、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・大日本帝国憲法と帝国議会の成立過程に着目して、外国との関係や現代の政治とのつながりを考察し、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・日清・日露戦争が起こった理由を、世界の帝国主義の動きや日本の近代化との関わりから考察し、事象を関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・工業化の進展が国民生活や文化に与えた影響について、その光と影の二面性を考察し、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	レポート 定期考 査
3		主体的に学習に取り組む態度	・欧米諸国における近代化と市民社会の成立について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ・欧米諸国における「近代化」の進展と東アジアの動きについて、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ・明治維新と近代国家の形成について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ・議会政治の始まりについて、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ・国際社会との関わりについて、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ・近代産業の発達と近代文化の形成について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	レポート 単元テ スト